椎の苗木通信

夢・力・花いっぱい

木城町立木城中学校
Tel　0983-32-2028
Fax　0983-32-4191

木城の明日を担う心豊かでたくましい人づくり
（木城町教育大綱の基本理念）

不審者対応避難訓練

5 月 22 日(月)の 6 校時，不審者を想定した避難訓練を実施しました。生徒の方には，事前に予告しておきました。ただ，どのクラスに不審者が入るかは職員も分からない状況でした。

スクールサポーターの桂さんが，不審者役になられ，3 年教室に侵入してきました。居合わせた 3 年生の先生方で不審者に速やかに対応し，その間，生徒はグラウンドへ避難しました。他の教室の先生方も現場にかけつけ，不審者の身柄を確保ました。避難後，生徒は体育館に移動し，桂さんの講話を聴きました。

日頃から不審者には気を付け，おたすけハウスなどの一時避難場所へ駆け込んだり，地域の方に助けを求めたりすることの重要さについても話されました。

学校支援訪問がありました

学校支援訪問が 5 月 24 日(水)に行われました。学校支援訪問では，木城町中竹教育長をはじめ，県教育委員会学校政策課，中部教育事務所の方々が来校されました。この訪問の大きなねらいは，先生方の授業における学習指導についての指導・助言をすることにより，先生方の授業改善を図ることです。その日の 2 校時から 4 校時にかけて先生方の授業を 7 名の指導主事等の方々が授業参観され，午後，先生方に個別的にフィードバックをされました。先生方は，以下の 4 つの視点で授業を進めていくように，今後，指導の工夫・改善をされていきます。

#1 子ども一人一人の理解度を 1 単位時間(50 分間)の授業の中で評価し，学習内容の定着や習熟を図る時間を確保していきます。

#2 学習指導内容を精選し，指導におけるテンポや間に配慮して授業を進めます。

#3 子どもの実態にマッチした授業内容にします。

#4 指示や発問を的確に行い，子供に伝えます。

生徒の皆さんも，先生の説明を熱心に聴き，宿題などの提出物を確実に行い，学力向上に努めてもらいたいと思います。

大学入学希望者学力評価テスト(仮称)

現在の中学 3 年生から大学入試制度が大きく変わります。これまでのセンター試験に変わり「大学入学希望者学力評価テスト(仮称)」によって評価されます。この試験では，どのような力が重視されるのでしょうか。国語，数学，英語の 3 教科

について簡単にまとめてみました。

#1　**国語**では，多様な見方や考え方が可能な題材に関する文章や図表等から得られる情報を整理し，概要や要点等を把握するとともに，他の知識も統合して比較したり推論したりしながら自分の考えをまとめ，他の考えとの共通点や相違点等を示しながら，伝える相手や状況に応じて適切な語彙，表現，構成，文法等を用いて効果的に伝えること。

#2　**数学**では，事象から得られる情報を整理・統合して問題を設定し，解決の構想を立て，数量化・図形化・記号化などをして数学的に表現し，考察・処理して結果を得，その結果に基づきさらに推論したり傾向や可能性を判断したりすること。

#3　**英語**では，多様な見方や考え方が可能な幅広い話題・問題に関する情報を聞いたり英文や図表などを読んだりして，情報を整理しながら概要や要点を把握し，得られた情報を統合するなどして活用しつつ，様々な見方や考え方の共通点や相違点等を示しながら，自分の考えや主張を適切な語彙，表現，文法等を用いて効果的に伝えること。

その他にも以下のような点が変更されます。

➢　英語の試験では，英検のような民間試験を活用し，受験生は2回まで受けられ，結果のよい方を採る。国語の記述式も民間に委託し，80～120字程度の問題を数問出題される方針である。

以上のことを踏まえ，生徒の皆さんは4年後以降の大学入試も視野に入れて，思考力・判断力・表現力を向上できるように努力することが大切ではないでしょうか。

[お願い]　椎木児童館南側道路から木城中学校正門までは，7:30～8:00まで一方通行ですので，御協力をお願いします。

校　長　雑　感

学ぶということ、学校に行くということ

２年ほど前、「世界の果ての通学路」という映画を見ました。10～13 歳くらいの子どもたちが、学校に登校する様子を映象にしたドキュメンタリー映画でした。ご覧になった生徒や保護者もいらっしゃると思いますが、印象に残った映画でしたので、簡単に紹介したいと思います。

アフリカ・ケニアの兄弟は、夜明けを迎えるころ、片道 15 ㎞の道のりを２時間かけて毎日登校します。崖を登り、草原を駆けていきます。一番危険なのは象です。野生の象はとても凶暴で、もし出会ったら命がありません。映画でも、あわや象と出会いそうになり、子ども２人が必死で逃げる場面がありました。

モロッコに住む女の子は、友達３人で 22 ㎞を歩いて登校します。片道４時間かかります。途中で、女の子の一人が足を痛め、２人がその子をかばいながら登校します。なんとか学校に遅刻しないで済むように知恵を出し合い、助け合いながら登校します。

アルゼンチンの 13 歳の少年は、幼い妹をつれ片道 18 ㎞の道のりを馬と一緒に学校に向かいます。崖っぷちで、なおかつ足場がガラガラと崩れる危険な道を１時間半かけて登校します。

インドでは、足が不自由な兄を古い車椅子にのせ、弟２人が車椅子を押しながら、４㎞の道のりを１時間 15 分かけて登校します。途中、川を渡るときに、車椅子が川の中で動かなくなってしまったり、さびだらけの古い車椅子なので、途中でタイヤがパンクしたり、車輪が外れてしまったりしながらも、なんとか困難を克服して、学校までたどり着きます。

学校に着いて勉強する彼らに「なぜ、そこまでして学校に行くのか。」と聞くと、どの子も夢と希望に瞳を輝かせて答えます。ある子は、「賢くなって、しっかりとした仕事に付き、家族に楽をさせたい」。別なある子は、「自分のふるさとをもっと豊かにしたい」、「パイロットになって、世界中を飛び回りたい」、「医者になって、自分のような病気に苦しむ人を助ける人になりたい」。まだ 10 歳そこそこの子どもたちが、将来の夢と、勉強できることの喜びを、自信に充ち溢れた表情で語ってくれます。

夢や目標をもって、逆境に負けず一生懸命勉強する子どもたちが、世界にはたくさんいるんだということを知りました。そして、勉強するということは、日本に住む中学生たちにとっても、きっと同じはずだと思いました。勉強というのは、やらせられるのではなく、自分のためという意識をもって、希望をもって、目標をもってすべきものなのだということに、改めて気付かされました。

今の日本の子どもたちはどうだろう。こんなに目を輝かせながら勉強に向き合う子どもたちがどれくらいいるのだろうか？勉強すること、勉強できることがあたりまえになりすぎてしまって、また、恵まれた環境であるがゆえに、その大切さやありがたさが見えなくなっている。そんな子が多いのではないだろうか？色々なことを考えさせられる映画でした。

ビデオ屋さんでレンタルできるようです。まだ見ていない方は、是非、親子で見て、勉強や普段の生活について考え、話し合ってみてはいかがでしょうか。